

シンポジウム 19：がん在宅の未来～地域で支えるためにできること～

演題名	がん診療の在宅医療と、地域包括ケアへの期待 ～ 医師の立場から
------------	---------------------------------

概要

がん患者の在宅療養を支援していると、医学的な支援とともに、社会的な支援の重要性を感じる。医師や看護師だけではなく、ケアマネジャーや行政、地域住民などとともに、患者が病気をもちながらも、その人らしく生活が続けられるように支援していきたい。一方で、その支援する仕組みが、必ずしも地域に充実していないことも、これまで経験してきた。そこで、地域包括ケアの発展に結びつけるためには、どのように地域にアプローチをしたら良いのか、試行錯誤を重ねながら取り組んでいるつもりである。シンポジウムでは、その実際を紹介しながら、発展の糸口を見つけられるようにディスカッションで、より考察を深めたい。

【これまでの取り組み】

- 1) 一例一例を通じた多職種協働：日常的な情報共有、カンファランスなど
- 2) 地域の専門職が集まる機会を作る：顔の見える関係、医師から敷居を下げることなど
- 3) 仲間を増やす：研修の受け入れ、他職種・後輩への呼び掛けなど
- 4) 調査、研究：地域の実態を知るアンケート調査、在宅看取りに関する研究など
- 5) 市民への啓発：市民フォーラム、市民参加型座談会の主催など

こうした活動を通じて、地域の力が互いによって引き出され、それらが有機的につながることを期待したい。そのきっかけになることを願って取り組んでいる。

地域包括ケアが充実していることは、ケアを受ける患者（住民）が安心して療養生活を送れるようになるだけでなく、将来ケアを受けることになるかも知れない地域の人々にとっての安心にも結びつく。

その人らしく生きることを医学的立場から支援する——それが医療の本質だろう。その一側面として、在宅医療・地域包括ケアがある。「病気や障害を持っても、自分の地域で、自分らしく生きていける」そうした確信を、地域の人々に持ってもらえる、そんな地域を目指して、日々診療や地域活動を行っているところである。